

# 人格障害をモデルにしたパーソナリティ検査に関する研究 (7)

Cloninger の気質・性格モデルからの検討

中澤 清 (関西学院大学文学部)

キーワード: Cloninger の気質・性格モデル, 人格障害, パーソナリティ・スタイル

## Cloninger's Temperament & Character Model and Personality Styles

NAKAZAWA Kiyoshi (Kwansei Gakuin University)

KeyWords: Cloninger's Temperament & character model, Personality disorders, Personality styles

### 問題

ここではパーソナリティ・スタイルはその人独特の防衛的スタイルが行動的なまとまりとなったものをいう。このようなパーソナリティ・スタイルについて、我々は生得的機序に基づく行動を抵抗することなく親しみをもって繰り返し、さらに青年期の人間関係の難しさが加わり強固なものにするのではないかと推測してきた。

Cloninger は以前 (1987) から気質を無意識的な自動反応としてとらえ、気質と性格の相互作用がパーソナリティを形成するとして TCI (Temperament and Character Inventory;1993) を作成した。彼の気質性格モデルは精神疾患に基づく理論から作られており、生得的要因が強いパーソナリティ・スタイルとの関連を見ることは興味のあるところである。

### 方法

**10PesT について** DSM-IV のパーソナリティ障害概念をモデルにしたパーソナリティ・スタイルを測定するパーソナリティ検査 10PesT (10 Personality Styles; 中澤, 2003) の下位尺度項目名は DSM-IV に基づいて、妄想性 (Par), 分裂質性 (Sct), 分裂性 (Sch), 反社会性 (Ant), 境界性 (Bor), 演技性 (His), 自己愛性 (Nar), 回避性 (Avo), 依存性 (Dep), 強迫性 (Obs) とした。各下位尺度は 10 項目で構成され、合計 100 項目の質問項目がある。回答は「はい」「いいえ」の外「多分」という推測を含む選択肢を加えた 3 件法 (0 ~ 2 点) で回答を求める。

**TCI について** 木島ら (1996) によって翻訳された日本語版 TCI の短縮版 (125 項目) を用い、回答を「全くそうだ」から「全く違う」の 4 件法 (0 ~ 3 点) で行った。下位尺度は新奇性追求 (NS), 損害回避 (HA), 報酬依存 (RD), 固執 (P), 自己志向 (SD), 協調 (C), 自己超越 (ST) である。

**調査対象者** 大学生だけではなく専門学校生を含む人々から資料収集した。欠損値の多い (10PesT, TCI でそれぞれ 3 項目以上) 被験者をデータから排除したので、最終的に被験者は 161 人 (男性 53 人, 女性 108 人) となった。被験者の年齢範囲は 20 歳から 42 歳で、平均は 20.7 歳 (SD2.6 歳) であった。

**実施法** 被験者に心理学関係の講義の一環として 10PesT, TCI を実施した。各自に自己採点させ、検査結果をフィードバックすることを教示してから回答させた。この手続きをとることにより、社会的望ましさや虚偽回答を排除するようにした。なお回答はマークシートに転記させ、その場で回収した。

### 結果と考察

TCI の性差を求めたところ RD において女性の方が高得点であることがわかった。10PesT にも性差のあることがわかっていて調査対象者数が少ないので男女合計で相関を求めた。

Sch, Ant, Hys, Nar 各尺度は NS (新奇性追求) と負の相関が得られたが、これらの尺度には新たな刺激や報酬体験から遠ざかるという遺伝的傾向が推測される。生活の中で保守的態度をとり、見慣れぬ事態には近づかないことを示している。これに対して Dep 尺度は新たな刺激に近づき、報酬体験を追求する傾向を持つと考えられる。新奇な事態に対して依存行動が触発されると思われる。

HA (損害回避) と負の相関を示した Bor, Dep, Obs 尺度は、脅威刺激に対し行動を抑制する遺伝的行動を示していることが多いと推測される。また Hys, Avo 尺度は脅威刺激が提示された時に演技的行動や回避的行動が解発されることを表すと考えられる。

Sct, Sct, Ant, Avo 尺度は RD (報酬依存) と正の相関があり、社会的関係の維持を嫌う遺伝的傾向があり、学習が成り立ちにくいことが示された。Nar は社会的関係な中で維持しようとする行動が自己愛行動であると考えられる。

自己志向 (SD) と正の関係がある Pat, Sct, Sch, Ant, Bor, Dep, Obs 尺度は、自立的な能力を持ち、自らの行動を目的・計画に沿ってコントロールできる能力を示すと思われる。負の相関がみられた Hys, Avo 尺度は自己を統制する能力が乏しいことを示唆すると考えられる。

Par, Sct, Ant, Nar 尺度は協調 (C) と正の相関があり、自己を統合しようという能力を持ち、共感的で、他者を受容することができることを示している。負の関係にあった Avo 尺度は他者に対して寛容ではなく、ひとり閉じこもる傾向を表していると考えられる。

Sch 尺度は自己超越 (ST) と負の相関があり、有能感を持っていないことを示し、正の相関がある Hys は人生の満足感を持っている指標と考えられる。なお固執 (P) と有効な相関を示したものはなかった。

SD, C の低さが人格障害を形成するという説とは違い、生活における問題行動が顕現していない健常者のパーソナリティ・スタイルには関係がないのかもしれない。

**参考文献:** 木島伸彦他 1996 Cloninger の気質と性格の 7 次元モデルおよび日本語版 Temperament and Character Inventory (TCI) 季刊精神科診断学 7:379-399

表 10PesT と TCI のピアソンの相関関係

		1 0 P e s T									
		Par	Sct	Sch	Ant	Bor	Hys	Nar	Avo	Dep	Obs
T	NS	-.12	-.07	-.31*	-.37*	.02	-.32*	-.45*	.21*	.31*	.20*
	HA	-.03	-.28*	-.07	.01	-.35*	.40*	.28*	.38*	-.48*	-.32*
C	RD	.26*	.38*	.36*	.33*	.11	-.01	.29*	-.29*	-.08	.12
	P	-.26*	.10	.04	.28*	.17	.19	-.07	-.12	.09	-.25*
I	SD	.35*	.49*	.37	.40*	.57*	-.49*	.11	-.51*	.55*	.39*
	C	.34*	.33*	.29	.42*	.19	.07	.47*	-.45*	-.05	.13
	ST	-.16	-.06	-.30	-.10	-.05	.35*	-.26*	.22*	-.03	-.13

\* p < 0.01